

鳥獣被害防止総合対策支援事業の事業評価結果

東部農林事務所

事業実施主体名 (協議会名)	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績								事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価
										被害金額(千円)				被害面積(a)						
										基準値	目標値	実績値	達成率	基準値	目標値	実績値	達成率			
伊豆の国市鳥獣被害防止対策協議会	伊豆の国市	平成26年度～28年度	イノシシ シカ ハクビシン カラス	推進事業(有害捕獲) 鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業	ハクビシン用箱わな2基 デジタル簡易無線機34台、ドッグマーカー12台 有害捕獲活動経費 ・イノシシ(成)313頭、(幼)29頭 ・シカ(成)165頭 ・カラス2羽	伊豆の国市鳥獣被害防止対策協議会		無線機、ドッグマーカー: H28.1.28 小型箱わな: H29.1.25	・購入した捕獲機材や有害捕獲活動への支援により捕獲数の向上、事故防止が図られた。	イノシシ4,297 シカ230 ハクビシン766 カラス1,248	3,007 161 536 873	4,376 987 1,013 448	▲6% ▲1,097% ▲107% 213%	イノシシ877 シカ119 ハクビシン156 カラス489	613 83 109 342	575 35 7 24	114% 233% 317% 316%	・捕獲数は着実に増加し、イノシシ・ニホンジカについては目標を達成している。また、本市において計画期間中に協議会関係者による事故は報告されておらず、山中で不明になった猟犬の頭数も大幅に減っていると伺っており、事業目的のうち捕獲数の増加、安全で効率的な捕獲により従事者の負担軽減には、非常に大きな効果があったと思われる。 ・本市の被害防止計画の捕獲目標は、平成22～24年度の平均捕獲実績(イノシシ77頭・シカ8頭・カラス81羽)を基に捕獲者である猟友会と相談し、設定した数値であり、当鳥獣被害防止総合対策事業の効果により捕獲数は、着実に増加しイノシシ及びニホンジカについては、捕獲目標を達成しているが、被害額は増加している。この大きな原因の1つは、捕獲数が生息数(被害)の減少に転じる一定の数量まで達していないことと思われる。生息数の把握は非常に困難ではあるが、目標数を見直すことにより捕獲数は、生息数の減少に転じる数量に設定する必要があった。また、単価が高いイチゴや冬季の葉物野菜の被害が多かったこと、侵入防止柵の整備が行き届いていない農地が繰り返し被害にあっていくことも要因と思われる。目標達成に向けて先端技術等を取り入れたより効率的な捕獲を支援することが重要と思われる。 ・今後は市職員で組織した実施隊を設置し、地域住民や農林業者へ鳥獣対策技術の普及啓発、野菜残渣や放任果樹の適正な管理に向けた意識改革、追い払いやノットロール等の活動を行う予定である。実施隊の活動を通じて、集落全体の取組へと広がるようにしたい。捕獲についても出役日数を減少させ報償額を抑えられるような従事者の負担を減らすための先端技術や大型の捕獲器の導入を検討したい。	市協議会として、鳥獣被害対策を住民主体で進めようとする姿勢を評価したい。家庭菜園や小規模農家の意識啓発は難しいと思うが、集落が一体となって鳥獣被害対策に取り組むことが出来るよう、引き続き、指導してほしい。(静岡県農林技術研究所 森林・林業研究センター 上席研究員 水井陽介)	対象獣種全てで被害面積は達成しているが、被害金額は未達成であった。被害は減少していないので、継続的な対策を進めて欲しい。

県による総合的評価(今回、事業評価を行った県内の全事業実施主体に対する評価)

全体的に目標達成が低調であった。今後は捕獲、被害防除、生息環境管理の取組の強化とともに、鳥獣被害対策実施隊による被害対策の体制整備を進めていく。